

【日程】

①春 2021 年 5 月 7 日 (金)

②秋 2021 年 9 月 29 日 (水)

【参加者】

■OB

春 大島良治 (13 期)、坂尻忠秀 (15 期)

久富象二 (20 期)、黒崎敏男 (22 期)

秋 坂尻忠秀 (15 期)、奥名正啓 (15 期)

久富象二 (20 期)、黒崎敏男 (22 期)

平田和彦 (金沢市役所スポーツ振興課)

大竹正市 (元「れのん」マスター)

■現役 参加なし

【1】相変わらず険しいアプローチ

冬の積雪の影響からか、高桑碑のある場所は上部からの大規模な土砂崩れによって幅 30m 高さ 3m 程度が岩石で埋まっている状態。かろうじて高桑碑は難を免れたが、隣の元住民の方の顕彰碑は直撃を受けて大きく傾き、一部損壊していた。

例によって、つり橋手前の 500m くらいの間は足元が悪く、草に隠れて見えないが数十m下まで切れ落ちた場所もあり慎重に歩行する。

難所のへつりは水量計の手前までもがけ状になってしまっており、秋は河原を歩こうとしたが滑って危険だったため道に戻った。丸太が渡されているへつりについては現在も有志によって維持がなされ、慎重に通過すればこれまでどおり何とか渡ることはできるが、天候等によっては丸太もひどく滑り、荷物が重い場合は避けた方が無難と思われる。流れの向きはやや変化してきた。

片道でダムから 2 時間 30 分を要するが、これ以上早く歩行することは困難である。



【2】小屋の状態

周囲はいつもどおり草ぼうぼうではあったが、外部内部とも特に目に付く異常はなく、今のところ安全性に問題はないと見られた。屋根の腐食は進んでおり、塗り替えが必要な時期か。また、ホースに複数亀裂があるため補修が必要。床板も以前ほど腐朽は進行しておらず快適に過ごせる。

【3】河原の草刈り

近年、川原で小屋掛けをして過ごしておられた方々がまったく入山していないため、ブッシュがひどく、へつり部分から小屋までは毎回改めて草刈りを行う必要がある。

【4】帰路

春はへつりを利用、秋はう回路の尾根越えの道を行ったが、それぞれそれなりにしんどく、尾根越えの道については引き続き草刈り、目印などのメンテを行う必要はある。

【5】来年春に向けて

小屋については仮に行うとしても壁の補修や屋根の塗り直し、ホース修理程度を実施すればよいとみられる。

高三郎登山道については、秋に登山口まで偵察したが、金山谷までは特に問題はないものの、谷に渡してあった丸太とロープが使用不能になっているため、増水期は通過が難しいかもしれない。

また、残雪期を中心に多少の登山者が入山している模様で、その記録によると笹が復活してわかりづらくなっている個所があるようなので、希望者があり、可能であれば中間部の草刈りを実施できればと考える。ただし、2 泊を要する可能性があるので事前によく検討してみたい。

今回は 5 月連休明けを予定しており、現役の参加もあり得、久しぶりに賑やかになればうれしいところです。参加可能な方はご計画方、よろしくお願いします。

